

※表中の（ ）書きは大内による。
 ※表中の「言語技術」Ⅱの欄に付した―線は大内による。―線を付した箇所は、学習者の〈書く活動〉を行いやすくするための具体的観点。
 ※「言語技術」Ⅲにおいて省略されている題材・例文及び参考文献については考察の中で具体的に取り上げる。

	「言語技術」Ⅰ	「言語技術」Ⅱ	「言語技術」Ⅲ
学習者に身につけさせるべき作文の基礎力	Ⅰの言語技術を身につけるために行われる学習者の言語技術としての書く活動	Ⅱの言語技術を身につけさせるための教師の言語技術―題材と例文及び参考文献等の提示―	
(-) 述べ方(表現・修辞)			
A 描写する	<p>一 人物や事物・場所を取り上げて、形・様子・色・音・におい・感じを書くこと</p> <p>二 人物や事物・場所の形・様子・色・音・におい・感じを思い出して書くこと</p> <p>三 いろいろの物事や状態から想像したことを書くこと</p> <p>四 絵を見て、そこに見られる、ある生活の断片を書くこと</p> <p>五 絵を見て、絵の、前とあとの情景を書くこと</p> <p>六 独話の記録を書きことばにすること</p> <p>七 会話によって、その話し手の心持ちや様子を書くこと</p> <p>八 会話によって、地の文を書くこと</p>	<p>〈次の一つ一つについてそれぞれ書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の一つ一つについてそれぞれ書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文を読むと、どんなこと、どんな様子が想像されますか。会話なども入れて、それをくわしく書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈配られた写真の中の生活を書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈配られた写真の、あとの場面を想像して書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次は独話のお話のままを書いてあるものですが、普通の文章に書き直してみましよう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の会話は、どんな人たちの話し合いでしょうか。その人の心持ちや様子を書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の会話の場面や話し手の様子などを、適当なところに書き入れてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p>	
B 説明する	<p>九 ものごとの意味を、それはこういうことだと説明すること</p>	<p>〈次のことはどういうことか。説明する文章を書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p>	

<p style="text-align: center;">C 議論する</p>	<p>一〇 できごとを、その経過にしたがって書くこと</p> <p>一一 ものごとの組み立てを説明すること。</p> <p>一二 新しいものごとを、今まで知っているものと比較して説明すること</p> <p>一三 ものごとを事例によって説明すること</p> <p>一四 証拠をあげ、根拠をあげて、ある意見に賛成したり反対したりすること</p> <p>一五 短い文で書かれている結論を、二つの文にしたり、三つの文にしたりすること</p> <p>一六 結論を短くまとめて書くこと</p> <p>一七 助詞「が」を使っている文章を、「が」を使わないで書くこと</p> <p>一八 相手や場面によって、それに合わせて、いろいろな気持ちを表現する書き方にする</p>	<p>〈次のことの経過を書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の説明を書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の説明を書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次のことを、事例をあげてせつめいしてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の意見に対して、証拠をあげて、賛成か反対の意見を書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p>
	<p style="text-align: center;">D 説得する</p>	<p>一九 読む相手を心において、ある意見を強めるために、ことばを直すこと</p> <p>二〇 文の表現を、少しおだやかにすること</p> <p>二一 読む相手を心において、書こうとする意見に合った例を選んで書くこと</p> <p>二二 読む相手を心において、書こうとする意見を相手にうったえるために、引用することばやことがらを選んで書くこと</p>

<p>E 物語る</p>	<p>二三 あることを第三者の立場になつて書くこと</p> <p>二四 ひとのことを自分のこととして、一人称で書くこと</p> <p>二五 あることを対話の形で書くこと</p> <p>二六 あることを日記や手紙の形式で書くこと</p> <p>二七 あることを架空の世界のこととして書くこと</p>	<p>〈次の文章を、第三者の立場になつて書き直してみよう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章の中の、兄か姉になつて、この情景を書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章の中の、かれか母になつて書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章を、対話を用いて書き直してみよう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章を、日記や手紙の文のように、ことばを簡潔にまとめて書き直してみよう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章を、「すずめ」の世界のお話として書き直してみよう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章を、いくつかの動物たちのお話として書き直してみよう。〉 (題材・例文は省略)</p>
<p>F 感動を表わす</p>	<p>二八 感動を、その感動のひびきを、ことばの調子や感じに出して書くこと</p>	<p>①宮沢賢治の『よだかの星』を読んで、「よだか」になつたつもりで、よだかの心を詩のように書くか、「よだか」に向かつて、言つてやりたいことを詩のように書くかしてみよう。</p> <p>②太宰治の『走れメロス』を読んで、その感動を短いことばで書いてみましょう。(詩の形で書いてもよい)</p>
<p>(二) 書き出し(構成・配置)</p>	<p>一 書こうとしていることばらについて、端的に書き始めること</p> <p>二 自分の一つの論拠から書き始めること</p> <p>三 自分の考えと他の考えとを対比して書きはじめること</p> <p>四 反対の考えから書きはじめること</p> <p>五 問題提出の形式で書きはじめること</p> <p>六 あるできごとを、時から書きはじめたり、所から書きはじめたりすること</p>	<p>〈あとにあげた題材で、書き出しを端的に書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈一つの論拠から書きはじめるとして、あとにあげた題材で書き出しを書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈自分の考えと他の考えとを比べて書きはじめるとして、あとにあげた題材で書き出しを書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈自分と反対の考えから書きはじめるとして、あとにあげた題材で書き出しを書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈問題提出の形で書きはじめるとして、あとにあげた題材で書き出しを書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次のできごとを「時」から書きはじめてみましょう。また「所」から書きはじめてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p>

B 関 係	A 切 り 方	(三) 段 落 (構 成・ 配 置)
<p>九 ある意見の段落に、わざと反対のことや、逆の面から述べる段落と、また本論にもどる段落を書くこと</p> <p>八 ある意見の段落に続けて、話を切りかえ、別の観点から同じ問題をとりあげる段落を書くこと</p> <p>七 ある意見の段落に、前のことを確かめたり、はっきりさせるための根拠や理由を書くこと</p> <p>六 書こうとすることによって材料の順序を決めること</p> <p>五 段落を論理的に並べること</p>	<p>一 新しい考え、新しい段落によって、説明文の段落を切ること</p> <p>二 対象・ふんいき・立場や見地によって、感想文の段落を切ること</p> <p>三 時刻・場面・動作・人物によって、物語の段落を切ること</p> <p>四 話し手の変わるところによって、会話文の段落を切ること</p>	<p>七 あるできごとを「情景／会話」から書きはじめること</p> <p>八 あるできごとの「発端／結末」から書きはじめること</p> <p>九 書こうとしていることの「中心的な人物」印象的な人物から書きはじめること</p>
<p>〈次のいくつかの文章を、筋が通るように、()の中に順番をつけてみましょう。〉(題材・例文は省略)</p> <p>〈次の題で書くとして、あとにあげた材料を、どの順序で書いていくか、順番をつけてみましょう。〉(題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章に続けて、その根拠や、理由を書いてみましょう。〉(題材・例文は省略)</p> <p>〈次の意見の段落に続けて、話を切りかえ、別の面から述べていく段落を書いてみましょう。この段落の中の意見で言おうとしていることを変えずに、別の面から書くのです。〉(題材・例文は省略)</p> <p>〈次の意見に続けて、反対の意見を述べる段落を書きましょう。次に、またもとにもどる段落を書いてみましょう。〉(題材・例文は省略)</p>	<p>〈次の文章の中で、考えや、述べた内容が変わったところで、段落を切ってみましょう。〉(題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章を、対象・ふんいき・立場や見地の違いによって、段落を切ってみましょう。〉(題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章を、時刻・場面・動作・人物の違いによって、段落を切ってみましょう。〉(題材・例文は省略)</p> <p>〈次の会話文の、話し手の変わるところに、印を付けてみましょう。〉(題材・例文は省略)</p>	<p>〈次の文章を、情景から書きはじめてみましょう。また、会話から書きはじめてみましょう。〉(題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章の中でできごとを、「発端」から書きはじめてみましょう。また、「結末」から書きはじめてみましょう。〉(題材・例文は省略)</p> <p>〈書こうとしていることの「中心的な人物」から書きはじめてみましょう。また、「印象的な一端」から書きはじめてみましょう。〉(題材・例文は省略)</p>

	<p style="text-align: center;">D 主題の出し方</p>
<p>一九 いろいろな主題の出し方に合わせて見出しを書くこと</p>	<p>一〇 論文について―読み手の立場・能力を考えて、経過や前提条件などの段落を置くかどうか考えること</p> <p>一一 論文について―読み手の立場を示して、具体的な例を付属させるか、独立段落にするか考えること</p> <p>一二 論文について―相手の立場や考え方を示して、具体的な例をあげる段落を付属させるか、独立させるか考えること</p> <p>一三 論文について―相手の立場や考え方を示して、従来の経過や前提条件を置くかどうか判断すること</p> <p>一四 必要な場合に、適当な補充段落を書くこと</p> <p>一五 論文について―相手の立場や考え方によって、念をおすべき段落を入れること</p> <p>一六 論文について―読み手の立場・能力によって、念をおすべき段落を入れること</p> <p>一七 二つの間に飛躍のある段落と段落の間に、ある段落を入れ、必要に応じて、前の段落の終わりとあとの段落の初めを書きかえること</p> <p>一八 読み手の立場や考え方を示して、不要な段落を省くこと</p>
<p>(1) 主題をいちばん初めの段落に出すとして見出しを書くこと (次の順序で文章を書くとして、全体の見出し(題)をつけましょう。)</p> <p>(2) 主題をささえるいくつかの根拠や、主題の説明を積み重ねといって、いわば絶頂にきた時に主題を出すとして見出しを書くこと</p>	<p>〈次の文章には、いろいろあると考えられる読み手に対して、前置きになる段落が必要かどうか、また、その段落をどういうふうにいれたらよいか、考えてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章は、その前にあげた読み手に対して、具体的な例を、付属させるか、またはそれを独立段落にして強調したほうがよいか、考えてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章の場合、前にあげた読み手に対しては、具体的な例をあげる段落を付属させるのと、独立させて強調するのと、どちらが適当でしょうか。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章は、その前にあげた読み手に対して、前おきになる段落が必要かどうか考えてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章の必要と思うところに適当な補充段落を入れて書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章について、いろいろ考えられる読み手に対して、念をおす段落を入れて書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章について、いろいろ考えられる読み手に対して、念をおす段落を入れて書いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章は、二つの段落の間に飛躍があります。その間に新しい段落を入れ、必要に応じて前後の段落の終わりと初めを書きかえてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章について、その前にあげた読み手に読ませる場合、 unnecessary 段落を省いてみましょう。〉 (題材・例文は省略)</p>
	<p style="text-align: center;">C 補充・省略</p>

E 中心文の位	二四 段落の中間にある中心	<p>〈次の傍線を引いた中心文を、その段落の「初め」</p>
	<p>二三 一九のような場合に、文章に小見出しをつけること</p>	<p>〈一九のそれぞれに、適当なところに小見出しをつけてみましょう。〉</p> <p>〈次の文章に小見出しをつけてみましょう。〉</p> <p>(例文は省略)</p>
	<p>二二 一九のような場合に、書き出しと結びによって、その間の段落の初めの文を書くこと</p>	<p>〈その他、次の題材で二一、二二をやってみよう。〉</p> <p>(題材は省略)</p>
	<p>二一 一九のような場合に、段落を考えて、それぞれ段落の初めの文を書くこと</p>	
	<p>二〇 一九のような場合に、各段落の初めの二、三文節を書くこと</p>	<p>(1)から(8)までの例文は全て省略)</p>
		<p>〈次の順序で文章を書くとして、その見出しをつけましょう。〉</p> <p>(8) それぞれの段落で、主題自体でなく、主題に係した事からを取り上げ、結果として主題を示すことにするとして見出しを書くこと</p> <p>〈次の順序で文章を書くとして、その見出しをつけましょう。〉</p>
		<p>(7) 初めに主題を出し、それをいろいろな角度から否定していき、最後に否定の否定をして、初めの主題を強く論証する方法をとるとして見出しを書くこと</p> <p>〈次の順序で文章を書くとして、その見出しをつけましょう。〉</p>
		<p>(6) 主題と反対主題を、ずっと対比的に出して、反対主題を次々に否定していくとして見出しを書くこと</p> <p>〈次の順序で文章を書くとして、その見出しをつけましょう。〉</p>
		<p>(5) 主題に対しての反対主題を一つ一つ取り上げて批判し、自分の主題だけを残すとして見出しを書くこと</p> <p>〈次の順序で文章を書くとして、その見出しをつけましょう。〉</p>
		<p>(4) 小主題を次々に出していき、それらを全部合わせて一つのまとまった主題を出すこととして見出しを書くこと</p> <p>〈次の順序で文章を書くとして、その見出しをつけましょう。〉</p>
		<p>(3) 主題をそれぞれの段落でくり返していくとして見出しを書くこと</p> <p>〈次の順序で文章を書くとして、その見出しをつけましょう。〉</p>
		<p>〈次の順序で文章を書くとして、その見出しをつけましょう。〉</p>

		置	
		<p>文を「初めへ／終わりへ」移すこと</p> <p>二五 段落の初めにある中心文を終わりへ移すこと</p> <p>二六 段落の終わりにある中心文を初めへ移すこと</p>	<p>または「終わり」へ移して書いてみましょう。移したために、文章として書きかえなければならぬところがあれば、書きかえて清書しましょう。」</p> <p>(例文は省略)</p>
		<p>二七 相手・場によって、文章の終わりの表現を書くこと</p> <p>二八 結論前までの文章に結びを書くこと</p>	<p>〈次に二つの文章があります。それぞれを、次のような相手や場面に向けるものとして、文章の終わりの表現を書きかえてみましょう。〉</p> <p>(題材・例文は省略)</p> <p>〈次の文章の結論を書いてみましょう。〉</p> <p>(例文は省略)</p>
		<p>二九 論文について―読み手の立場を示して、強調すべき段落を書くこと</p> <p>三〇 読み手の立場や考え方によって、簡単にする段落を選んで簡単に書くこと</p> <p>三一 論文について―相手の立場や考え方によって、どの段落かを強調すること</p> <p>三二 場・相手・目的によって、適当な強さの言い方を書くこと</p>	<p>〈次の文章について、その前にあげたような立場の読み手に対し、強調したい段落の部分を強めて書いてみましょう。〉</p> <p>(例文は省略)</p> <p>〈次の文章について、いろいろな読み手に対し、簡単にしたい段落を簡単に書き改めてみましょう。〉</p> <p>(例文は省略)</p> <p>〈次の文章について、いろいろの相手を考えて、どの段落かを強調してみましょう。〉</p> <p>(例文は省略)</p>
	(四) 書き継ぎ(文と文) (構成・配置)	<p>一 主語文節によって文を書き続けること</p> <p>二 述語文節によって文を書くこと</p> <p>三 書きだし文によって第二の文を書き継ぐこと</p> <p>四 ある文に、続きことばや「こそあど」によって文を書き継ぐこと</p>	<p>〈次の主語文節によって文を書き継いで完成してみましょう。〉</p> <p>(例文は省略)</p> <p>〈次の述語文節によって文を完成してみましょう。〉</p> <p>(例文は省略)</p> <p>〈次の書き出し文に続けて第二の文を書き継いでみましょう。〉</p> <p>(例文は省略)</p> <p>〈次の文章に続けて、書きことばや「こそあど」を使って、あとの文を書き継いでみましょう。〉</p> <p>(例文は省略)</p>

<p>五 いろいろな二つの文をつないで一つの文にすること</p> <p>六 結論に書きそえて、それを具体的に肉付けして書くこと</p>	<p>〈次の二つの文を一つの文にして書いてみましょう。ただ、「が」でつながないこと。〉 (例文は省略)</p> <p>〈次のはある文章の結論です。このあとに必要なところを具体的に肉付けして書き足してみましょう。〉 (例文は省略)</p>
<p>七 結論的意見に(それに同じ意見)を続けて書くこと／それに反対意見を続けて書くこと</p>	<p>〈次の結論的意見に、それに同じ意見を続けて書いてみましょう。また、反対の意見を続けて書いてみましょう。〉 (例文は省略)</p>
<p>八 三つの事がらを四つか五つの文に書くこと</p>	<p>〈次の三つの事がらを、四つか五つの文に書き直してみよう。①は文の数が今よりもふえることになり、②は減ることになります。〉 (例文は省略)</p>
<p>九 段落の中から段落全体の考えに関係を持っていない文を取り出すこと</p>	<p>〈次の文章の中から、その段落全体の考えに関係を持っていない文を取り出してみよう。〉 (例文は省略)</p>
<p>一〇 昔のことを書いた文章に続けて、今のこと及びして書くこと</p>	<p>〈次の、昔のことを書いた文章に続けて、今のこと及びして書いてみましょう。〉 (例文は省略)</p>
<p>一一 今のことを書いた文章に続けて、昔のことへ書きひろげること</p>	<p>〈次の、今のことを書いた文章に続けて、昔のことへ書きひろげてみましょう。〉 (例文は省略)</p>
<p>一二 身近なことを書いた文章に続けて、広い視野へ書きひろげること</p>	<p>〈次の、身近なことを書いた文章に続けて、広い視野へ書きひろげてみましょう。〉 (例文は省略)</p>
<p>一三 作者や経験者の気持ちを書いた文章に続けて、その気持ちを起こした事実を書きそえること</p>	<p>〈次の、気持ちを書いた文章に続けて、その気持ちを起こした事実を書きそえてみましょう。〉 (例文は省略)</p>
<p>一四 書かれた事がらを読んだ、先を書き続けること</p>	<p>〈次の文章に続けて、その先を書きついでみましょう。〉 (例文は省略)</p>
<p>一五 広い視野から書いた文章に続けて、身近なことに引きつけて書くこと</p>	<p>〈次の、広い視野から書いた文章に続けて、身近なことに引きつけて書いてみましょう。〉 (例文は省略)</p>
<p>一六 事実を述べた文章に、作者や経験者の気持ちを書きそえること</p>	<p>〈次の、事実を述べた文章に、作者の気持ちを書きそえてみましょう。〉 (例文は省略)</p>
<p>一七 情景を書いた文章に、それをくわしくする文章を書き継ぐこと</p>	<p>〈次の、情景を書いた文章に続けて、それをくわしくする文章を書いてみましょう。〉 (例文は省略)</p>

	<p>一八 情景を書いた文章に、まとめる文を書き継ぐこと</p> <p>一九 一つのことを述べたあとに、問題の事がらを並べ上げること</p>	<p>〈次の、情景を書いた文章に続けて、それをまとめる文を書きついでみましょう。〉 (例文は省略)</p> <p>〈次の文章のあとに、その中の問題の事がらを並べ上げなさい。〉 (例文は省略)</p>
(五) 材料 (発想・着想)	<p>一 いろいろな材料を目的によつて取捨すること</p> <p>二 一つの材料で目的を変えて書くこと</p> <p>三 いろいろな材料を主題によつて並べること</p>	<p>〈いろいろな材料を、示された目的によつて取捨してみましょう。〉</p> <p>① 例と同じ材料で、次のABCがそれぞれ主題である場合、材料をどんなふうに並べ、肉づけするかを考えてみましょう。</p> <p>② 次に並んでいる材料の中から、<u>「a 幸福とは何か。／a 幸福はどうしたら得られるか、」</u>の目的でそれぞれ選んで並べ、肉づけしてみましょう。 (①と②の参考文と材料文は省略)</p> <p>〈次の文章をA・Bの目的で書き直してみましょう。〉 (材料文は省略)</p> <p>〈次の主題でいろいろな材料をあげ、それを書く順序に並べてみましょう。〉 (参考文と主題文は省略)</p>
(六) その他	<p>一 仲よしの友だちに読んでもらうつもりであった文章を、もっと広く読んでもらう文章として書き直すこと</p> <p>二 相手が学級のつもりで書いた文章を、学校全体対象として書きかえること</p> <p>三 ある論文を紹介し、それに対する意見を書くこと</p>	<p>〈次の、親しい友だちに読んでもらうつもりであった文章を、もっと広く読んでもらう文章として書き直してみましょう。〉 (例文は省略)</p> <p>〈次の、学級の人に書いた文章を、学級全体の人に読んでもらう文章として書き直してみましょう。〉 (例文は省略)</p> <p>〈次の論文の内容を紹介し、それについての自分の意見を書いてみましょう。〉 (例文は省略)</p>
(七) 注	<p>一 注釈する必要があるものに注釈を付けること</p> <p>二 参考文献の必要な文章に、参考文献を付けること</p>	<p>〈次の文章に注をつけてみましょう。〉 (例文は省略)</p> <p>〈次の文章に参考文献をあげてみましょう。〉 (例文は省略)</p>